

日本盲人図書館の点字出版本

Published Braille Books in the Japan Blind Library between 1940 and 1948

NISHIWAKI, Tomoko

西 脇 智 子

日本語コミュニケーション学科准教授

抄録：

社会福祉法人日本点字図書館の前身となる日本盲人図書館を創設したのは本間一夫である。疎開先の北海道増毛にある本間の生家に置いてきた蔵書の一部が帰館した。そのうち点字出版書を対象に本年9月までに収集した諸事象を補充し発行所の別に再考した結果、当時の点字図書の一部でもある27件の点字出版所が製版発行した点字図書であることが判明した。これらは点字出版事業史を裏付ける貴重な資料であることが推察された。

Abstract：

This paper catalogs and reports on the braille books available as part of a certain collection in 1940s Japan. Specifically, it documents 27 published books held in the Japan Blind Library between 1940 and 1948.

キーワード：日本盲人図書館、点字出版本、点字出版所、蔵書、本間一夫

Keywords：Japan Blind Library between 1940 and 1948, published braille books, publishing, collection of books, Honma kazuo

はじめに

昭和15(1940)年11月10日に本間一夫が創設した日本盲人図書館は今日の社会福祉法人日本点字図書館の前身である。視覚障害者のための図書館は、戦後、昭和23(1948)年4月に日本点字図書館と改称して再出発するまでに及び、郵送による貸出事業を展開してきた。開館準備期から足掛け8年の歳月は、戦時中の混乱期と重なり、また東京大空襲による図書館建物の消失や二度の疎開を経ており、その活動実態を物語る資料は、開館一周年に合わせて作製した冊子(本間1941)を除き、ほぼ残っていないことが指摘されていた。

しかし、平成22(2010)年に本間が開館前後で書き残した大学ノート^{註1}が複数発見されたことをきっかけに、日本盲人図書館時代の研究は立花を中心に本格化した(立花2018)。本間が「図書館準備用記録」と題した大学ノートには、点字図書出版調査や発行所別書籍数及び「9月1日～総定価」が記録されており、点字出版所から蔵書となる図書を発注するために書き取ったものと推察されている。また、「図書貸出事業準備記録」と題した大学ノートには、注文書の書名が克明に記録されており、日本盲人図書館の蔵書傾向が明らかになりつつある(立花2015a:21、立花2015b:26~32)。

平成24(2012)年9月、二度目の疎開先となった北海道増毛にある本間の生家から日本盲人図書館の「蔵書」と「貸出カード」が帰館した。筆者は、これを機に日本盲人図書館の蔵書研究に取り掛かり現在も継続中である。2015年までに得られた調査結果は、日本点字図書館が刊行した『本間一夫と日本盲人図書館：本間一夫生誕百年記念出版』に報告していた(西脇2015a、2015b、2015c、2015d、2015e)。その際、点字出版本については、編集の都合により発行年と書名による点字出版本一覧を掲載した経緯がある(西脇2015f)。本間は日本盲人図書館を創設するにあたり、「その頃購入できた約700冊の点字図書をそろえました。価格は一冊一円から一円十銭ぐらいだったと記憶します」と述べており(本間1980:54)、帰館した点字出版本から得られる諸事象をさらに補充することが急務であった。そこで、点字出版本を対象にして本年9月までに収集した諸情報を発行所の別に再考し、いつ、どこから発行された点字出版本が日本盲人図書館の蔵書の一部であったのかを明らかにすることが本研究の目的である。

1. 調査対象

本研究の調査対象は、日本点字図書館本間記念室が所蔵する日本盲人図書館の蔵書の点字図書である。これらは、2012(平成24)年9月に帰館した本間が生家に置いてきた点字出版本である(図表1)。

図表1 帰館した日本盲人図書館蔵書 点字出版書



(出典：日本点字図書館本間記念室所蔵)

2. 日本盲人図書館蔵書と点字出版所

帰館した日本盲人図書館の蔵書のうち「点字出版本」を日本点字図書館職員（当時）の佐藤に触読してもらって得られた諸情報を収集し、発行年および発行所の別に整理した結果、京都府立盲学校同窓会出版部、鍼按講究所、帝国盲人会、帝国盲人会点字出版部、大貫善治堂、大日本国民中学会盲人教育部、東京盲学校、社団法人桜雲会、盲人基督信仰会出版部、東京光の家、英国聖書協会、東京希望社、日本点字社、日本点字社そうぶん会、長野県松本盲学校校友会出版部、日本鍼按協会、星文社、日本鍼按協会出版部、栄光社、陽光会、大阪毎日新聞社、恩賜財団 軍事援護会、ライトハウス出版部、軍事保護院、中央盲人福祉協会、和歌山県立盲啞学校、日本聖書株式会社が発行または製版していることが読み取れた。さらに、点字出版事業に関連する年譜を作表し（図表2）、その動向に照らしてみると、発行者と発行所の関連性が深い事情が浮かび上がってきた。再考の結果、点字出版所は27件あることが明らかになった。そこで当時の諸事情を考慮して、このうち川越源治（A）、東京盲学校（B）、秋元梅吉（C）、山村熊次郎（D）、肥後基一（E）に関連する発行所の別に点字図書一覧を発行年順に整理して作表した（図表3）。

図表2 点字出版事業に関連する年譜

年	出 来 事
明治4年(1871)	文部省設置／9月 山尾庸三 盲学校・聾学校に関する建白書を太政官に提出
明治5年(1872)	「学制」公布
明治7年(1874)	8月「医制」発布
明治8年(1875)	5月 古川正雄ら6人がヘンリー・フォールズの家で会合を開き、楽善会を作って盲教育の運動開始
明治11年(1878)	5月 京都盲啞院設立、開業式挙行／伊藤庄平 初めて点字の『盲目児童凸文字習書』を著す
明治22年(1889)	京都盲啞院 京都市立盲啞院と改称
明治23年(1890)	11月1日 東京盲啞学校 石川倉次案を「日本点字」に採用
明治25年(1892)	横浜 盲人福音会 加藤安造 わが国最初の点字本を製版／アメリカの一人婦が横浜訓盲学院（当時の「盲人福音会」）創設者ドレーパー女史の事業に共鳴、点字聖書を作ることを目的に、アメリカのイリノイ州立訓盲院長フランク・H・ホール考案の足踏み式の点字製版機（ステレオタイプメーカー）輸入・寄贈／滝録松 ＊イギリス製点字盤を手本にわが国で初めて点字盤を作る／鍼按学友会設立
明治26年(1893)	東京盲啞学校校長の小西信八、渡米の際に点字印刷機をアメリカから輸入
明治27年(1894)	3月8日 東京盲啞学校 校長の小西信八が明治天皇の銀婚式奉祝の点字歌集2冊を文部省通じ宮内省に献上。この点字歌集は「わが国初の点字出版物」とみられる。／秋横浜 盲人福音会 わが国最初の新訳聖書の点字本『ヨハネ伝』を横浜の米国聖書協会に委託して出版／加藤安造 横浜の盲人福音会に寄贈された点字製版機で新約聖書を製版。1895～1896年にかけて『マタイ伝』『マルコ伝』『ルカ伝』『使徒行伝』出版、新約聖書の最初の5巻完成
明治34年(1901)	4月22日 官報に「日本訓盲点字」記載／秋 仲村豊次郎 滝録松の点字盤を見て、25マスの点字盤の試作を成功させた
明治35年(1902)	盲人医学協会 東京市在住の盲人の鍼按家が業界の向上・発展を目指し設立／東京盲啞学校 「鍼按学友会」点字製版開始、加藤安造が中心となり出版事業実施、今田東著『実用解剖学』の製版、わが国最初の点字雑誌『盲人世界』（隔月刊）の編集・製版を担当発行⇒点字雑誌『盲人世界』は同窓会に引き継がれ、1903年6月『むつばしのひか

年	出 来 事
	り」へ発展／加藤安造 点字本『キリスト降生 1902 年約翰 (ヨハネ) 伝福音書』(大日本聖書館) 発行
明治 36 年 (1903)	6 月 東京盲啞学校 同窓会 点字雑誌『むつぼしのひかり』(月刊) 創刊／7 月 京都市立盲啞院 雑誌『点字世界』創刊、アメリカから点字製版機ステレオタイプメーカー購入、雑誌を年 2~3 回発行
明治 37 年 (1904)	6 月 京都市立盲啞院 インターポイント (行間を狭め点字の空間にも裏から点字を打つ方式) で発行 東京盲啞学校「鍼按学友会」と東京盲啞学校同窓会が合併、同窓会は事業部を設けて「桜雲会」と称した。
明治 38 年 (1905)	春 左近允孝之進 活字式点字印刷機を考案、木製の活版器完成 (「二面刷点字活版機」と命名)、6 月に特許取得⇒その後、鉄製の点字活版機完成／7 月末 左近允孝之進 点字出版社六光社 (神戸訓盲院の一軒おいて隣) 設立、編集・活字鑄造・植字・印刷の四部が組織／10 月 六光社 わが国初の点字新聞『あけぼの』発行 *点字出版書発行、『教育勅語』『高等小学読本巻一』、左近允孝之進『盲人の教育点字独習書』、ヘレン・ケラー『わが生涯』、好本督『日英の盲人』、岐阜訓盲院同窓会誌『星かげ』など
明治 39 年 (1906)	六光社 1906 年春から 2 年間にわたって『早稲田中学講義録』点訳・発行 (継続出版)／好本督 英国の留学より帰国、早稲田大学講師となる／わが国初の盲人福祉事業団体「日本盲人会」設立。発起人の中心、好本督・岐阜訓盲院長の森巻耳・神戸訓盲院長の左近允孝之進などのキリスト教信者が点字図書出版事業中心の福祉事業に取り組み、最初の点字出版『日英の盲人』(好本督)、『わが生涯』(ヘレン・ケラー)、『後世への最大遺物』『キリスト信徒とは何ぞや』(内村鑑三)などを神戸六光社から出版
明治 40 年 (1907)	川越源治 東京市神田区下壁町で鍼按業の傍ら点字書の出版開始／仲村点字器製作所 仲村豊次郎は東京盲啞学校鍼按科教諭の奥村三策と協力、イギリス製の点字製版機を改良、国産の製版機を開発、製作販売
明治 41 年 (1908)	春 仲村点字器製作所 本郷区真砂町電車通りに新築移転、「盲人用点字機械及び万飾製造」大看板掲げる
明治 42 年 (1909)	4 月 文部省 東京盲啞学校から分離して東京盲学校設置／失明軍人の山岡熊次が日本盲人協会設立 高岡清次、森恒太郎など設し、民間人で最初に点字図書を出版、『日本の盲人』(月刊) 発行／仲村点字器製作所 東京盲学校鍼按科教諭の奥村三策が仲村豊次郎に相談し、足踏み式軽便印刷機 (国産点字製版機) 完成
明治 43 年 (1910)	4 月 東京盲啞学校「東京聾学校」と「東京盲学校」に分離／文部省 わが国初の点字楽譜の解説書『訓盲楽譜』出版 = 東洋音楽学校長で東京盲啞学校音楽科講師の鈴木米次郎が翻訳・編集した墨字 (活字) 版／日本盲人協会 尋常小学校『国語読本』『修身』『地理』『国史』など教科書出版
明治 44 年 (1911)	内務省令「按摩術営業取締規則、鍼術・灸術営業取締規則」制定／京都市立盲啞院 わが国初の点字楽譜の解説書『訓盲楽譜』の点字版発行／川越源治 自宅に仲村豊次郎が完成させた足踏み式軽便印刷機 (製版機) 購入、「按摩術・鍼術・灸術取締規則」制定を機に、『日本按摩術』『按腹法』『消毒法』などを点字出版
大正元年 (1912)	11 月 京都市立盲啞院 在校生・卒業生及び職員の有志が「ブライユ社」組織 = 文学書、鍼治マッサージ応用の婦人科学等の出版、雑誌『光』発行
大正 3 年 (1914)	2 月 東京盲学校 石井重次郎 (松声)「点字による箏曲楽譜」考案
大正 4 年 (1915)	11 月 秋元梅吉 キリスト教の伝道を目的とする雑司が谷信光会の雑誌『信光』創刊号発行
大正 5 年 (1916)	東京盲学校同窓会 出版事業部を独立、「桜雲会」発足／12 月 中村京太郎 盲人クリスチャンのために点字雑誌『信仰』創刊
大正 6 年 (1917)	2 月 中村京太郎 盲人クリスチャンのために点字雑誌『信仰』第 2 号発行
大正 7 年 (1918)	東京盲学校 石井重次郎らが研究した箏曲の点字楽譜記号をまとめた『訓盲楽符入門』(墨字) 出版
大正 8 年 (1919)	4 月 秋元梅吉 好本督・中村京太郎とともに、北豊島郡西栗鴨町に盲人キリスト信仰会設立。中村京太郎は週刊点字新聞『あけぼの』創刊 (1922 年 2 月まで継続)。秋元梅吉は月刊雑誌『信仰』および『盲女子の友』の編集・発行を担当
大正 9 年 (1920)	夏 京都、山本暁得が弘誓社を設立 (仏教信仰の点字月刊雑誌『仏眼』発行、仏教書

年	出 来 事
	籍『真宗聖典』5巻、『新訳仏教聖典』15巻などの点訳出版)／東京光の家 *盲人基督信仰会から分離、秋元梅吉を中心に誕生、点字出版事業＝キリスト教の書籍『何処へ行く』『嗚呼無常』出版(点字大阪毎日型の大版で発行)／帝国盲教育会発足 点字教科書の出版／後藤静香 社会強化事業の団体希望社を設立
大正10年(1921)	2月 弘誓社 仏教信仰の点字月刊雑誌『仏眼』創刊／中村京太郎『英語点字の説明』出版／秋 奈良盲学校長の小林卯三郎が点字教科書刊行会組織、国定教科書の点訳版を出版⇒ 1922年9月、点字大阪毎日に事業が引き継がれる／伊達勝芳と江村悌三東京盲学校卒業生有志「土曜会」創始(伊達の所有した原版は東京点字出版所に引き取られる)
大正11年(1922)	4月15日 大阪毎日新聞社 点字新聞発行の事務を開始(編集主任の中村京太郎、同夫人・小島謹一・大野加久二ら4人雇用)／5月11日 大阪毎日新聞社『点字大阪毎日』創刊 *創刊号800部発行／9月 点字大阪毎日 点字教科書刊行会から事業を引き継ぎ、国語・修身・算術な43種の教科書を点訳・刊行、翌年4月から全国の盲学校で使用／秋 岩橋武夫が日本ライトハウスを創設 簡易点字製版機(軽便機)と手動式ローラー点字印刷機購入、エスペラント学習書『点字日エス辞典』などの点字出版を行った。これがライトハウス点字出版事業の基礎となる／秋 ひかりの園社 こどもの点字雑誌『ひかりの園』創刊(私立三重盲哑学校の鳥居篤治郎が編集、大阪の橋本喜四郎が製版印刷)、奈良盲学校の校長、小林卯三郎の自宅をひかりの園社として発行の事務を執る
大正12年(1923)	1月 山村熊次郎 自宅を改造して日本点字社を開設／3月初め雑誌『点字治療新報』発行＝小林卯三郎が編集、山村熊次郎は軽便印刷機(仲村製足踏み式製版機)を使って作製、各盲学校の鍼按科と全国業界の有名人に寄贈／7月8日 東京盲学校 教諭小浜伊次郎、大日本国民中学会発行『講義録』の全科目完成(点訳:山下長一)／8月 文部省「盲学校及び聾哑学校令」を出し、盲・聾分離の方針を打ち出し、道府県に盲学校および聾学校の設置義務を課す
大正13年(1924)	4月 盲学校に中等部が通教科の重視と鍼按科4年の設置／東京の伊達点字出版所『大正国語読本』、数学・物理・化学・英語などを点訳・出版、昭和初期には『ポケット英和辞典』8巻、『ポケット和英辞典』6巻を発行＝1945年3月、戦火に遭うまで継続された／大阪市立盲学校 同窓会から鈴木米次郎編集『新編音楽理論』出版(点字楽譜及び楽典の基礎を解説、当時、盲学校における音楽教育になくはならないもの)／後藤静香 社会強化事業の団体希望社に点字出版部設立、大阪毎日新聞社の電動印刷機と同じものをアメリカから購入(当時の1500円)、秋元梅吉を編集主任として点字月刊誌『かがやき』発行
大正14年(1925)	6月1日『日刊東洋点字新聞』創刊 東京淀橋の鉄工業者の木村福が社長、義弟の木村柳太郎が主幹。木村福が活字式輪転機を製作、『日刊東洋点字新聞』発行。個人経営が困難となり読売新聞社に譲渡され、1942年8月『点字よみうり』として発行、1945年12月諸事情により廃刊／神戸 森泰蔵経営の神戸盲哑院(盲人施設)点字出版 雑誌『象牙の塔』、『文学辞書』、『近代思想十六講』刊行／大阪市立盲学校 *音楽科教員の川端米逸、杉江券一郎らの編集『箏符解説』出版＝箏曲に関する点字楽譜の解説として最初のもの／大阪市立盲学校同窓会☆ 出版部を開設、『生理学』4巻、『初等物理』『初等化学』『音楽理論』などの中等部用教科書を出版
大正15年(1926)	4月 肥後基一 東京府豊多摩郡淀橋町に日本鍼按協会を設立。月刊『鍼治マッサージ』発行(7年継続、76号で廃刊)。『二宮翁金言集』『手帳論語』、尾崎行雄『政治読本』発行／ホーリネス派牧師 安田菊政がみちしるべ社を創立 *九州から東京に移り、信仰雑誌『みちしるべ』、盲児雑誌『おともだち』、英字点字雑誌『ガイディングスター』発行／大阪市立盲学校 同窓会が点字楽譜出版＝ピアノ教則本『バイエル』、『ツェルニー』(30番)、声楽の基礎練習のための『コーリューブングン』発行／仲村点字器製作所 新型製版機を完成、国内に広く普及。昭和初期にはアジア諸国への輸出
昭和3年(1928)	点字毎日 文部省編『尋常小学唱歌帳』(1～6年用の教科書)発行／東京盲学校内の盲教育研究会 *中等部鍼按科教科書『解剖学』3巻、『病理学論』3巻、計16巻を編集・発行／盲人キリスト信仰会 *東京杉並区に新築移転。主な事業は出版事業、月刊雑誌『信仰』の継続発行、新たに盲児童用点字雑誌『小鳥の歌』(月刊)発行／岩橋武夫 イギリス留学から帰国 *点字出版事業の拡大、点字図書貸出事業開始。信仰を同じくする会員とともに「フレンド点訳奉仕会」を組織し、『夏目漱石全集』『トルストイ全集』の点訳版を作製／大阪市立盲学校 同窓会が点字楽譜出版、バイオリンの基礎練

年	出 来 事
	習のための『カイザー』発行／斎藤武弥 妻の百合と共同で点訳し、『民衆政治講座』（『土地公有論』『婦人解放論』『労働問題』などを含む20数巻）自費出版発行
昭和4年（1929）	4月10日 大阪毎日新聞社 わが国初の文部省著作の点字教科書『盲学校初等部国語読本』（第1学年用甲・乙）発行＝甲種は年長者用点字学習入門書、乙種は学齢児用入門書／岩橋武夫 ライトハウス運動の一事業として『世界盲人文化叢書』の刊行に着手、『社会問題としての盲人』『欧米盲人伝』などを出版／大阪市立盲学校 同窓会が点字の音楽雑誌『無絃琴』刊行＝初めての点字の音楽雑誌（後に『明日の音楽』と改名）、楽譜も掲載して音楽の普及に努めた
昭和5年（1930）	盲人キリスト信仰会 ＊出版事業で、中国語点字書『天路歷程』を出版、中国上海英国聖書協会に寄贈
昭和6年（1931）	日本鍼按協会 『簡明鍼按学』3巻、発行⇒1934～1941年までに中等部鍼按科教科書として、『解剖学』2巻、『生理学』2巻、『病理学』3巻など、全15巻を出版
昭和7年（1932）	山村熊次郎 日本点字社 1932年から早稲田大学の『文学講義録』の点字版全47巻を刊行
昭和8年（1933）	4月 盲人キリスト信仰会 「東京光の家」と改称／三輪尚 箏曲の譜を点字出版1908（明治41）年、点字楽譜と特殊な弾法記号を使って、箏曲の譜を書き表したものを改訂・発行／東京盲学校 印刷部に「点字印刷練習生」制度、自校で使用する教科書や参考書のほか一般教養書の製版印刷を行い、同校生徒だけに供給＝点字楽譜、声楽のための練習曲『コンコーネ』（50番）製版（非売品）／岩橋武夫 大阪盲人協会の会長に就任するとともに、自宅前に「ライトハウス」の看板を掲げる／斎藤武弥 東京点字社を設立／小林鉄工所 創業 点字タイプライターの開発に取り組む
昭和9年（1934）	大阪毎日新聞社 わが国初の文部省著作の点字教科書全12巻完成、出版 9月 東京点字社 雑誌『点字倶楽部』創刊／桜雲社 『点字楽符の書き方』出版＝東京盲学校の福家辰巳がイギリス盲人援護協会から出版されたKey to Musical Notationsを翻訳・編集（プライユの体系的点字楽譜をわが国に初めて紹介した）／東京盲学校『箏曲楽符記号表』発行、宮城道雄の作品約30曲を印刷、邦楽を学ぶ生徒たちに益するところが大きかった
昭和10年（1935）	10月 岩橋武夫 大阪市住吉区にライハウス会館落成／斎藤百合 盲女性のための陽光会を設立 ＊東京点字社の雑誌『点字倶楽部』引き継ぐ＝1945年まで継続 ＊12月8日 小石川区雑司ヶ谷110に転居、「陽光会ホーム」開始
昭和11年（1936）	4月 ライトハウス会館開所式、世界13番目のライトハウスとして公認／陽光会出版部 点字書4冊出版＝講談社社長の野間清治『世間雑話』（上下）、加藤祐康『乳もみ真髓』、長岡紫蘭『俳句読本』、深津千代『編物教本』
昭和12年（1937）	4月 ヘレン・ケラー来日（4月～8月まで滞在） （岩橋武夫 1934年12月にヘレン・ケラー女史を訪問、来日実現となる）
昭和13年（1938）	ライトハウス 高度な総合雑誌の点字雑誌『黎明』発刊、二年かけた『ヘレン・ケラー全集』点字版全10巻完成
昭和14年（1939）	2月 平井点字社 大阪市立盲学校出身の平井正が高松市宮脇町において、わが国でただ一つの点字楽譜専門の出版所を開始／4月 本間一夫 陽光会機関紙『点字倶楽部』編集長就任／大阪市立盲学校 同窓会『標準点字楽符の書き方』出版＝中村双葉を中心とした大阪市立盲学校音楽科の教員が編集、墨字版と点字版のページを一致させ、内容の説明を簡略化した特色あり／東京盲学校 印刷部「点字印刷練習生」制度＝自校で使用数する教科書や参考書のほか一般教養書の製版印刷を行い、同校生徒だけに供給＝点字楽譜『コーリユープンゲン』製版（非売品）
昭和15年（1940）	大阪市立盲学校 同窓会が点字楽譜出版＝シューベルトやブラームスの子守歌をはじめ、有名な歌曲のピースを発行／11月 日本盲人図書館開館、点字出版図書を購入し全国に貸出す
昭和17年（1942）	肥後基一 点字用紙の配給を受けるため、日本文化出版協会（後の日本出版会）に加入、社名を日本鍼按協会から星文社に改称 岩橋武夫 ライトハウス 吉川英治『宮本武蔵』善17巻完成・出版 8月15日 読売新聞社『点字よみうり』第1号発行／『日刊東洋点字新聞』が日華事変のため個人経営が困難になったため、読売新聞社に譲渡

年	出来事
昭和19年 (1944)	6月 肥後基一 再度の出版協会指導により、星文社(旧 日本鍼按協会)と「東京光の家」(旧盲人キリスト信仰会)出版部と合併し東京点字出版所と改称/「東京光の家」出版部は発展的に解消、盲人の宿泊及び更生福祉事業に専念
昭和20年 (1945)	3月 斎藤百合 陽光会編集部が『点字倶楽部』最終号発行 8月 肥後基一 東京点字出版所が『点字の友』発行
昭和22年 (1947)	仲村点字器製作所 戦後の物資不足の危機的状況を乗り越え、製版機の全自家製生産体制を完成
昭和23年 (1948)	点字毎日 林薫夫に文部省編の小学1年から中学3年までの音楽教科書の点字版原稿作製を委嘱し逐次盲学校に配本

出典：下記の資料から「出来事」を収集して時系列に整理し筆者が作表した。

鈴木栄助 (1979)『盲人に音楽を：佐藤国蔵の生涯』(NHKブックス 349)、日本放送出版協会、242～243頁／栗津キヨ (1986)『光に向かって咲け：斎藤百合の生涯』(岩波新書 黄版 342)、岩波書店／谷合侑 (1998)「第1章 点字印刷・出版事業」『盲人福祉事業の歴史』、明石書店、24～64頁／小林卯三郎 (2004)「点字出版史」『世界盲人百科事典』、日本ライトハウス、80～89頁／林薫夫 (2004)「点字楽譜の出版」『世界盲人百科事典』、日本ライトハウス、89～91頁／大橋由昌・山縣久美 (2011)「資料編 筑波大学附属視覚特別支援学校略年譜：盲啞教員分離後 東京盲学校百年史年表」、筑波大学附属盲学校同窓会ほか (代表 大橋由昌) 編『盲啞教育分離後百年：なずれば指に明きらけし 筑波大学附属盲学校記念文集』桜雲会、342～346頁／阿佐博 (2012)「第10章 戦前における点字の出版事業」『点字の履歴書：点字に関する12章』視覚障害者支援総合センター、171～196頁

図表3 帰館した日本盲人図書館蔵書：点字出版所の別による点字図書一覧

1. 「京都府立盲学校同窓会出版部」

明治42 (1909) 年発行／林薫著『修養の模範 全』(明治42年版)／林董著『点訳 修養の模範』(金文字)
* 日本盲人図書館蔵書印
明治42 (1909) 年発行／林薫著『修養の模範 全』(明治42年版)／林董著『点訳 修養の模範』(金文字)
大正14 (1925) 年3月12日 製版／武藤山治著『実業読本 (實業読本)』／経済学博士 太田正孝著『経済読本 全』
昭和10 (1935) 年6月 木村たかあき点訳／製版／販売／ 兵庫県立盲学校教諭 木下和三郎著作『灸法の学理 中巻』『灸法の学理 下巻』

< A 川越源治関連 2～5 >

2. 「鍼按講究所」川越源治

大正2 (1913) 年7月15日発行／発行販売所 東京市神田区下白壁町1番地 鍼按講究所 川越源治／医学士 たけなかせいけん著 診断学実習『最近臨床診断学実習 巻の一 前編』『最近臨床診断学実習 巻の二 後編』『最近臨床診断学実習 巻の二』『最近臨床診断学実習 巻の三 後編』
大正5 (1916) 年4月1日発行／発行発売所 東京市神田区下白壁町1番地 鍼按講究所 川越源治／医学士 齊藤くわん編纂『近世生理学 巻の二』
大正5 (1916) 年6月15日発行／発売所 東京市神田区下白壁町1番地 鍼按講究所 川越源治／医学士 齊藤くわん著『近世生理学 巻の三』

3. 「帝国盲人会」川越源治

昭和3 (1928) 年9月15日発行／出版発行所 東京市中野区宮前町20番地 帝国盲人会 川越源治／振替口座 東京26685番／(販売部) 東京市外中野町650番地 帝国盲人会 川越源治／東京市本所区おもてまち19番地 鍼灸家 ますだせいじろう／故 大久保ていさい著／談 星野すすむ教程／装丁第2版『鍼治新書 治療編 二巻』『鍼治新書 治療編 三巻』

4. 帝国盲人会点字出版部 川越源治

昭和9 (1934) 年4月製版／発行所 東京市京橋区小田原町1丁目4 盲人技術学校／電話 京橋 (56)

5810 番／振替口座 東京 23529 番／出版印刷 おおうりさばき所 東京市中野区宮前町 20 番地 帝国盲人会 点字出版部 川越源治／電話 中野 2584 番／定価 1 部 (4 冊) 実費 4 円／送料 荷造り費 1 部 40 銭／本書の墨字書も発行す。定価 実費 3 円 送料 18 銭／帝国大学講師 日本医科大学教授 医学博士 福士政一先生 校訂／日本医科大学講師 盲人技術学校教諭 医学博士 おおむらせいじ著『鍼灸 マッサージ摘要 病理学知識 第二卷 (総論)』『鍼灸 マッサージ摘要 病理学知識 第三卷 (各論 上)』

昭和 11 (1936) 年 9 月 1 日／東京市中野区宮前町 20 番地 帝国盲人会 川越源治／振替口座 東京 26685 番／電話 中野 2584 番／東洋倫理研究会編『講義付論語 三卷』

昭和 11 (1936) 年 10 月 1 日／東京市中野区宮前町 20 番地 帝国盲人会 川越源治／振替口座 東京 26685 番／電話 中野 2584 番／東洋倫理研究会編『講義付論語 二卷』『講義付論語 四卷』

5. 大貫善治堂

大正 14 (1925) 年 3 月 15 日 発行／発行所 東京市小石川区八千代町 37 番地 大貫善治堂／振替 東京 33523／盲人技術学校教諭 鍼灸学士 森田こうえい著『鍼灸本義 上巻』

昭和 7 (1932) 年 9 月 18 日／発行所 東京市小石川区八千代町 37 番地 大貫善治堂 東洋盲人慰安会／電話 小石川 3730／振替口座 東京 335223／東洋盲人慰安会編纂『日華事変忠勇美談集 連隊旗のひるがえるところ』

< B 東京盲学校関係 >

6. 大日本国民中学会盲人教育部

大正 11 (1922) 年 3 月 大日本国民中学会盲人教育部発行／教育部長 小浜伊次郎／点字印刷主任 たかおかみつこ／点字製版者 山下長一／学官 理学博士 山之内しげを関／東京府立豊島師範学校教諭 山之内たいち述『代数学講義 第二卷』

大正 11 (1922) 年 8 月 大日本国民中学会盲人教育部発行／教育部長 小浜伊次郎／点字印刷主任 たかおかみつこ／点字製版者 山下長一／学官 理学博士 山之内しげを関／東京府立豊島師範学校教諭 山之内たいち述『代数学講義 第三卷』

大正 11 (1922) 年 8 月 大日本国民中学会盲人教育部 発行／教育部長 小浜伊次郎／点字印刷主任 たかおかみつこ／点字製版者 山下長一／学官 文学博士 遠藤隆吉関／東京府立第一中学校 教諭 山崎すすむ述『世界地理講義 第二卷』

大正 12 (1923) 年 7 月 大日本国民中学会 盲人教育部 発行／教育部長 小浜伊次郎／点字印刷主任 たかおかみつこ／点字製版者 山下長一／学官 文学博士 遠藤隆吉関／学習院教諭 古川喜久郎述『作文講義 第二卷』『作文講義 全』

※発行年不明／学官 文学博士 遠藤隆吉関／東京府立第一中学校教諭 山崎すすむ述『日本地理講義第二卷』／大日本国民中学会 盲人教育部発行／教育部長 小浜伊次郎／点字印刷主任 たかおかみつこ／点字製版者 山下長一／*日本盲人図書館蔵書印

7. 東京盲学校

大正 11 (1922) 年 6 月 28 日製版終了 東京盲学校製版／点図／理学博士 寺尾寿／理学士 よしだこうくろう／大正 6 年 12 月 25 日文部省検定済 大正 7 年版『中等教科 平面幾何 第一巻』/**昭和 21 年 4 月 19 日池田とよひさ氏寄贈/**昭和 21 年 4 月 30 日佐藤とくじ氏より寄贈

昭和 12 (1937) 年 6 月 1 日製版完了 東京盲学校製版部／点図／理学博士 石川誠一著『改訂版 有機化学要論』／東京培風館 発行

※発行年不明／東京盲学校同窓会発行／東京盲学校教員 故奥村三策著『鍼按要論 生理編 上巻』／東京盲学校教員 故奥村三策著『鍼按要論 生理編 下巻』(金文字)／東京盲学校編纂 盲学校中学部鍼按科用『解剖教科書 下巻』／東京盲学校編纂 盲学校中等部鍼按科『灸術教科書 全』

8. 社団法人桜雲会

大正 13 (1924) 年 9 月 社団法人桜雲会発行／はしもとせっさい著／増訂第 9 版『近世内科全書 第一巻 血行器疾患』

大正 13 (1924) 年 11 月 社団法人桜雲会発行／はしもとせっさい著／増訂第 9 版『近世内科全書 第三巻

消化器】

昭和9 (1934) 年8月 上巻改版/社団法人桜雲会 桜雲社発行/東京盲学校教員 故奥村三策著『鍼按要論 生理編 上巻』

※発行年不明/東京盲学校教員 故奥村三策著『鍼按要論 生理編 中巻』/社団法人桜雲会 桜雲社発行

< C 秋元梅吉関係 9~12 >

9. 盲人基督信仰会出版部

大正13 (1924) 年9月 盲人基督信仰会出版部発行/ストレットン女史著/プレストン女史訳『母心』

大正14 (1925) 年8月25日 盲人基督信仰会出版部発行/野辺地天馬 著『金のすず 上巻 (英語 Kinno suzu)』

昭和元 (1926) 年6月 盲人基督信仰会出版部発行/ウォルトン夫人著/廣田花崖訳『岩の謎』***盲人基督信仰会蔵書印

昭和2 (1927) 年6月 盲人基督信仰会出版部発行 (同じ本2冊)/野辺地天馬 著『鐘の音』

昭和2 (1927) 年8月 盲人基督信仰会出版部発行/鈴木次郎著『なつかしき人々』

昭和2 (1927) 年12月 盲人基督信仰会出版部 発行/文部省認定『平民詩人 第一巻』増補改版/内村鑑三/畔上健三

昭和3 (1928) 年12月 盲人基督信仰会出版部/あしやろそん 訳『聖杯の武士』

※発行年不明/盲人基督信仰会発行/吉田彌平編/中学国語科用『新編現代文新鈔 巻二』/東京光の家増版/『明治天皇御舟 巻の上』/***盲人基督信仰会蔵書印^{注2}

10. 東京光の家

大正11 (1922) 年3月製版/東京光の家発行/ジョン バンヤン著/松本雪舟訳『天路歷程 正編 下巻』

大正13 (1924) 年5月中旬製版/東京光の家出版部発行/ワルトン女史著/はらだいぞう訳『ひかりの子全』

大正14 (1925) 年8月23日 東京光の家出版部発行/フランス ヴクトル・ユーゴー著/日本 黒岩涙香訳『LES MISERABLES. 嗚無情 中編』

昭和3 (1928) 年6月 東京光の家出版部発行/政池仁訳『(点字) 曇りつ照りつ』/(カタカナ) エッチアール ヒッグINS女史自伝

昭和9 (1934) 年3月 東京光の家増版/東京高等師範学校教授 峯岸米造著『中学校用 最新國史 巻の下 二』/吉田 彌平編/文部省検定済み 中学校国語科用『新国文読本 巻の二』

昭和9 (1934) 年9月 東京光の家版/文部省検定済み 中学校国語科用『新国文読本 巻の四』

昭和9 (1934) 年11月 東京光の家増版/ヘンリー ヴァンダイク原著/高瀬無絃『アルタバ物語』

昭和10 (1935) 年 東京光の家増版/※本の表紙=墨書き/吉田彌平編/『新編現代文新鈔 巻の一』/(梓の外に) 基督信仰会 発行

昭和10 (1935) 年11月 東京光の家 製版/『和田翁歌集』

昭和14 (1939) 年2月5日製版/昭和14年2月19日発行/編集者 ながいじつたろう/製版者 なかじままさのぶ/印刷兼発行者 秋元梅吉/発行所 東京光の家出版部 東京市杉並区大宮前3の164/電話 荻窪 4371番/定価 送費とも 金40銭なる/あいのプレゼント『ことりのうたブック 第一巻』

※発行年不明/発行所 東京光の家出版部/発行者 秋元梅吉 東京市杉並区大宮前3の164/印刷者 東京光の家/印刷所 東京の光の家印刷部/定価 金40銭/送料2銭/『羽仁もと子著作集 信仰篇 第一巻』/***盲人基督信仰会蔵書印

11. 英国聖書協会

昭和7 (1932) 年1月15日 印刷/大正9年1月20日発行/昭和7年7月15日 6版/定価30銭/神戸市神戸区江戸町95番屋敷/発行者・発行所 英国聖書協会/印刷人 東京市杉並区大宮前3丁目164番地 秋元梅吉/印刷者 東京光の家/PRINTED IN JAPAN/『我らの主なる救主イエス・キリストの新約聖書 (改訳) マルコ伝福音書』

12. 東京希望社

昭和4 (1929) 年3月10日 印刷／昭和4年3月15日 希望社出版部発行／発行者 後藤静香／印刷者 秋元梅吉／印刷所 希望社点字印刷部／吉田彌平編『国文読本 巻の一点訳』（同じ本2冊）／吉田彌平 編『国文読本 巻の二点訳』

※発行年不明／東京希望社発行後藤静香著『権威』／東京希望社 発行／（『権威』二冊の内、一冊のみ** 日本盲人図書館蔵書印）、『白熱 一卷』

< D 山村熊次郎関係 13～ >

13. 日本点字社そうぶん会

昭和6 (1931) 年12月 大阪市港区市岡東町1の4 日本点字社そうぶん会発行／早稲田大学教授 山口ざせし述／点字 早稲田大学文学講義『徒然草講義 上巻』／*日本盲人図書館蔵書印

昭和7 (1932) 年2月 日本点字社そうぶん会発行／早稲田大学教授 永井一孝（口述）『（点字）早稲田大学文学講義国文法 中巻』

14. 日本点字社

昭和15 (1940) 年7月 大阪市住吉区山坂西の町2の24 日本点字社／電話 平野1404／振替 大阪59785／『点字 疼痛と其の治療 第一巻』

昭和15 (1940) 年10月 大阪市住吉区山坂西の町2の24 日本点字社／電話 平野1404／振替 大阪59785／『点字 疼痛と其の治療 第二巻』

※発行年不明／早稲田大学教授 杉森藤次郎 後述／（点字）早稲田大学文学講義『社会学 下巻』／発行 大阪市港区東町1丁目4番地 日本点字社

15. 長野県松本盲学校校友会出版部

昭和8 (1933) 年12月4日製版／長野県松本盲学校校友会出版部発行／菊池寛訳編『フランダーズの犬』

< E 肥後基一関係 16～18 >

16. 日本鍼按協会

昭和9 (1934) 9年10月 東京市淀橋区柏木3の300 日本鍼按協会／振替 東京32972／日本鍼按協会編纂『盲学校中学部鍼按科用 灸術教科書』

昭和10 (1935) 年2月 東京市淀橋区柏木3の300 日本鍼按協会／振替 東京32972／日本鍼按協会編纂『盲学校中学部鍼按科用 解剖学教科書 上巻』

17. 星文社

昭和10 (1935) 年2月 発行所 東京市淀橋区柏木3の300 星文社／振替 東京32972／日本鍼按協会教育部編纂『盲学校中学部鍼按科用 生理学教科書 上巻』

昭和10 (1935) 年5月 発行所 東京市淀橋区柏木3の300 星文社／振替 東京32972／日本鍼按協会教育部編纂『盲学校中学部鍼按科用 解剖学教科書 下巻』（同じ本2冊）

昭和10 (1935) 年5月 発行所 東京市淀橋区柏木3の300 星文社／振替 東京32972／日本鍼按協会編纂『盲学校中学部鍼按科用 生理学教科書 下巻』

昭和17 (1942) 7年2月 発行所 東京市淀橋区柏木3の300 星文社／振替 東京32972／日本鍼按協会教育部編纂『鍼灸マッサージ試験問題答案集 下巻』

18. 日本鍼按協会出版部

昭和14 (1939) 年2月 発行所 東京市淀橋区柏木3の300 日本鍼按協会出版部／振替 東京32972／日本鍼按協会教育部編纂『盲学校中学部鍼按科用 診察法教科書 全』

19. 栄光社

昭和10 (1935) 年6月20日印刷／昭和10年7月1日発行／定価25銭（送料2銭）／発行兼印刷人 東京市淀橋区柏木4の876 栄光社 山田きくまさ／印刷所 東京市淀橋区柏木4の876 栄光社／発行所 東京市淀橋区柏木4の944 ホーリネス出版部会 栄光係／森永太郎 述『キャラメル王の体

験談』(基督イエス 新約聖書テモテの一説あり/昭和10年春 71-オ 森永太郎)
※発行年不明/『絶望の底よりの救い 全』

20. 陽光会

昭和11(1936)年9月10日発行/発行所 東京市小石川区雑司が谷町110番 陽光会/振替 東京
51841/本書定価 送料共 80銭/点字大阪毎日新聞記者 長岡紫蘭 著『俳句読本 全』

21. 大阪毎日新聞社

昭和12(1937)年3月1日 点字翻刻/昭和12年3月5日 点字印刷発行/点字翻刻印刷者 大阪府中河
内郡小坂町大字中小坂836 石原 博/印刷所 大阪市北区堂島上2丁目36 株式会社大阪毎日新聞
社/発売所 大阪市北区堂島(振替 大阪450)大阪毎日新聞社/東京市麴町区丸の内(振替 東京
2800)/東京日日新聞社/昭和12年5月15日製版/昭和12年5月20日発行/発行所 大阪市北区
堂島 大阪毎日新聞社/文部省認定点字国定教科書/日本盲人協会推薦点字書『二宮翁夜話』大阪毎
日新聞社

昭和13(1938)年8月10日製版/昭和13年8月15日印刷/発行所 大阪市北区堂島 大阪毎日新聞社/
振替 大阪450/定価金50銭/送料金3銭/点字大阪毎日編『点字軍歌集(楽譜付)』

昭和15(1940)年8月17日 製版/発行所 大阪市北区堂島上2丁目36 株式会社 大阪毎日新聞社
/振替 大阪450番/定価1円50銭(上下とも)/中村直勝 校閲/藤谷みさお著『(点字) 皇国
二千六百年史 上巻』(同じ本二冊)

昭和15(1940)年11月5日印刷/昭和15年11月10日発行/(上・下・二冊) 定価 金1円50銭 送料3
銭/発行兼印刷人 石原 博/印刷所 発行所 大阪毎日新聞社/発売所 大阪毎日新聞社 東京日
日新聞社/墨字英字点字の三大版/(墨字) 皇国二千六百年史/定価65銭 送料6銭/(英字) 皇国
二千六百年史/定価1円80銭 送料6銭/(点字) 皇国二千六百年史/定価1円50銭 送料3銭/
中村直勝 校閲/藤谷みさを 著『(点字) 皇国二千六百年史 下巻』(同じ本2冊)

昭和16(1941)年11月1日印刷/昭和16年11月5日発行/発行所 大阪市北区堂島上2丁目36 株式会
社大阪毎日新聞社/(振替 大阪450番)/定価金60銭/送料金3銭/『(点字) 国民礼法読本』

22. 恩賜財団 軍事援護会

昭和13(1938)年9月30日/代理店 東京市杉並区大宮前164番地/(電話) 荻窪4371番/大日本雄弁会
講談社編『点字 美談逸話名訓集 第一巻』恩賜財団 軍事援護会(官立東京盲学校納品陸軍省傷病
院御用)

昭和14(1939)年11月25日印刷/昭和14年11月27日発行/非売品/恩賜財団軍人援護会内/発行兼編
集人 清水登/印刷人 布施市小阪町東翠園 石原博/印刷所 大阪市北区堂島上2丁目 大阪毎日
新聞社点字大阪毎日/発行所 東京市牛込区原町3丁目8 恩賜財団軍人援護会/印刷所 大阪市北
区堂島上2丁目 大阪毎日新聞社/点字大阪毎日/*日本盲人図書館蔵書印/『点字 軍人擁護 第二
号』恩賜財団 軍人援護会

23. ライトハウス出版部

昭和13(1938)年10月 ライトハウス出版部/パール・バック著/新居 拡『大地 第一巻』

昭和13(1938)年12月 ライトハウス出版部/パール・バック著/新居 拡『大地 第二巻』

昭和15(1940)年1月20日 発行/大阪市住吉区昭和町西3丁目17 ライトハウス/山本有三著『波 父
の巻』

昭和15(1940)年4月発行/大阪市住吉区昭和町西3丁目 ライトハウス出版部/永田秀次郎著『日本の
前進』

昭和15(1940)年6月発行/大阪市住吉区昭和町西3丁目17番地 ライトハウス出版部/吉川英治著『宮
本武蔵 第二巻』/*日本盲人図書館蔵書印

昭和16(1941)年4月25日印刷/印刷人 かのもとひさきち/昭和16年5月発行/発行所 大阪市住吉
区昭和町西3丁目17番地 ライトハウス出版部/定価1冊1銭/大槻康子著『病院船』(同じ本2
冊)/*日本盲人図書館蔵書印

昭和16(1941)年9月点訳発行/発行所 大阪市住吉区昭和町西3丁目17番地 ライトハウス出版部/文

部省教学局 点訳認可／『臣民の道』

昭和16(1941)年9月20日発行／大阪市住吉区昭和町西3丁目17番地 ライトハウス出版部／ライトハウス出版部 点訳／情報局編集『防空の手引』

昭和17(1942)年2月発行／発行所 大阪市住吉区昭和町西3丁目17番地 ライトハウス出版部／しんめいまさみち著『点字教養講座 社会学 上巻』(同じ本2冊)

昭和19(1944)年7月発行／発行所 大阪市住吉区昭和町西3丁目17番地 失明軍人会館出版部／振替口座 大阪107000番／吉川英治著『宮本武蔵 第17巻』／*日本盲人図書館蔵書印

※発行年不明／発行所 大阪市住吉区昭和町3丁目17 ライトハウス出版部／振替口座 大阪107000 岩橋武夫著『星とパン 上巻』

24. 軍事保護院

昭和15(1940)年／発行所 軍事保護院／永田秀次郎著『日本の前進』(新潮社版)

※発行年不明／発行所 軍事保護院／山本有三作『不惜身命』(新潮社版)

25. 中央盲人福祉協会

昭和15(1940)年5月 中央盲人福祉協会／大蔵省国民貯蓄奨励局第一課長 多田喜一『点字 時局双書 第一集』(我が戦時財政経済を護るもの)

昭和17(1942)年3月 中央盲人福祉協会／文学博士 山田孝雄述『日本文化と日本精神』

26. 和歌山県立盲啞学校

※発行年不明／日本聖書株式会社／和歌山県立盲啞学校 点字印刷／文部省『国体の本義』

27. 日本聖書株式会社

※発行年不明／『新約聖書』『馬太傳聖福音書』『マルコ傳聖福音』

(出典：日本点字図書館本間記念室所蔵)

3. 帰館した点字出版本の特徴

1) 点字出版本と発行年月日

帰館した点字出版本には、いつ、どこで、だれが製版や印刷に関わり、発行されるに至ったのか、その経緯を知るために不可欠な諸情報を読み取ることができた。

しかし、昭和初期の点字出版事情を読み取れる中央盲人福祉協会が昭和13年に発行した『点字図書目録』(非売品)には、書名、著者名、冊数、点字出版所名(住所を含む)、定価が記載されているものの発行年月日には触れられていない。なぜ発行年月日が目録に触れられていないのかは今後の検証を待たなければならない。

2) 盲人基督信仰会の蔵書印

本間は、開館一周年に作製した冊子『日本盲人図書館開館一周年』の12月25日付「図書館日誌抜録」に、「小石川区高田老松町42番地、盲人基督信仰会は永年、点字書の貸し出しをやっていたが、本館事業に協力の意味から本年をもってこの事業を取り止める事となり、点字書約百冊と図書発送用布カバー10個を、本館に寄贈さる。衷心より感謝に堪えず。」と述べている(本間1941:43)。帰館した日本盲人図書館の蔵書の中に「盲人基督信仰会之印」が押されている点字図書が数冊含まれており、本間のこの記述を証明する資料となり得ることが判明した。

3) 点字図書の装丁

帰館した日本盲人図書館の蔵書には、金文字入り装丁の点字出版本が認められた。東京盲啞学校の発行する点字図書は「総クロス金文字入り」に綴じていた（渡辺 2017：75）との記述と一致する装丁も認められた。

本棚に並べてみると、本の「背」には、金文字入りの装丁に加え、京都府立盲学校の朱色、ライトハウスのサーモンピンク、東京希望社の青色などの色合いから発行先が分別できた（図表1参照）。ページをめくると、扉の点字縁飾り、ページの位置、点字を保護する用紙の工夫などもそれぞれ認められ、本の装丁にみる点字出版所の特性も浮かび上がってきた。

おわりに

日本点字図書館に帰館した前身となる日本盲人図書館の蔵書のうち点字出版本を対象に本年9月までに収集した諸事象を補充し発行所の別に再考した結果、27件の点字出版所が製版発行した点字図書であることが判明した。

野口は、昭和16年5月時点でも全国の点字図書出版所が発行している点字図書の種類（タイトル数）は1,062種、冊数1,814冊に過ぎない状況にあり、しかも出版される点字図書の傾向にも偏りがあることを報告している（野口 2007：41-42）。ちなみに、点字図書発行数と昭和16年出版界の年間納本図書総数「普通出版物 28,099冊、官庁出版物 5,563冊」（緑川 1987：225）と比較しても、その圧倒的な隔たりは明らかであった。今般、帰館した日本盲人図書館の蔵書の一部となる点字出版本は、当時の点字図書の一部でもあり、点字出版事業史を裏付ける貴重な資料であることが推察された。

現存する当時の点字出版本は限られていることから、帰館した蔵書研究をさらに進め、東京点字出版所に現存する点字図書^{注3}と比較することが今後の研究課題である。

謝辞

貴重な永久保存資料の閲覧をお許しいただきました日本点字図書館理事長の田中徹二先生はじめ館長の長岡英司先生、また文献照会ならびに諸資料の収集整理に伴いましてご助言を賜りました本間記念室の皆様（伊藤宣真様、川島早苗様、和田勉様、渡邊明様、濱田幸子様）、特に諸資料の整理や写真等の重要な記録作業にご尽力いただきました元館長の小野俊己様、元奥村文庫の梅田ひろみ様、静岡県立大学短期大学部の立花明彦先生、経年劣化し触読が困難な貸出本の点字触読にご尽力いただきました前職員の佐藤義裕様、ボランティアの森登美江様に多大なご高配を賜りました。また、東京点字出版所の肥後正幸様より貴重な情報を賜りました。ここに記して深甚なる感謝の意を表します。

注

1. 本間の直筆であることを踏まえ、日本点字図書館本間記念室委員会では「本間ノート」と総称している。
2. 表紙の裏側に、縦書き墨書きおよび点字にて「此書ハ故山岡会長の未亡人淑子ノ君ガ皇后宮女官テフ多用ノ身ウチテ毎週一日ダケハ盲人デトシテ此書ヲ點字寫本シテ寄付セラレシモノナリ」との表記があった。
3. 東京点字出版所の肥後正幸氏に創設時から昭和23年までの点字発行物を照会依頼した。現存する点字図書館の発行所・発行年・書名等の記された貴重な情報を得ることができた(2018年9月27日付)。現在、創設者肥後基一の人物史とともに東京点字出版所の活動史に照らして分析中である。

文献一覧

- 阿佐光也(2012)「聖書点字製版に命をかけた鍼師 伊藤福七」『視覚障害』(288)2012. 5、36-44頁
- 阿佐博(2012)「第10章 戦前における点字の出版事業」『点字の履歴書：点字に関する12章』視覚障害者支援総合センター、171-196頁
- 粟津キヨ(1986)『光に向かって咲け：斎藤百合の生涯』(岩波新書 黄版342)、岩波書店
- 岩上義則(2005)「創設の精神を今に伝える東京点字出版所」『視覚障害』(209)2005. 10、38-44頁
- 熊谷鉄太郎(1997)「点字文化の曙」『盲人たちの自叙伝5 薄明の記憶：盲人牧師の半生』大空社、172-175頁
- 大橋由昌・山縣久美(2011年11月)「資料編 筑波大学附属視覚特別支援学校略年賦：盲啞教員分離後 東京盲学校百年史 年表」、筑波大学附属盲学校同窓会ほか(代表 大橋由昌)編『盲啞教育分離後百年：なすれば指に明きらけし 筑波大学附属盲学校記念文集』桜雲会、342-346頁
- 小林卯三郎(2004)「点字出版史」『世界盲人百科事典』、日本ライトハウス、80-89頁
- 林薫夫(2004)「点字楽譜の出版」『世界盲人百科事典』、日本ライトハウス、89-91頁
- 緑川亨編(1987)『岩波書店70年』岩波書店
- 野口武悟(2007)「東京における点字図書館の歴史：明治時代から「日本盲人図書館」設立までの時期の検討」『東京社会福祉史研究』創刊号(2007年5月)、23-51頁
- 西脇智子(2015-a)「第3章1. はじめに：帰館した貸出活動の証」、本間記念室委員会編『本間一夫と日本盲人図書館：本間一夫生誕百年記念出版』日本点字図書館(非売品)、34-35頁
- 西脇智子(2015-b)「第3章2. 貸出カードに見る蔵書状況」、本間記念室委員会編『本間一夫と日本盲人図書館：本間一夫生誕百年記念出版』日本点字図書館(非売品)、36-37頁
- 西脇智子(2015-c)「第3章3. 点訳書の構成と本間直筆の<感謝のこぼれ>」、本間記念室委員会編『本間一夫と日本盲人図書館：本間一夫生誕百年記念出版』日本点字図書館(非売品)、38-49頁
- 西脇智子(2015-d)「巻末資料4. 貸出カード書名一覧」、本間記念室委員会編『本間一夫と日本盲人図書館：本間一夫生誕百年記念出版』日本点字図書館(非売品)、98-102頁
- 西脇智子(2015-e)「巻末資料5. 帰還した日本盲人図書館の蔵書：点訳寄贈書及び点字寄贈書一覧」、本間記念室委員会編『本間一夫と日本盲人図書館：本間一夫生誕百年記念出版』日本点字図書館(非売品)、103-105頁
- 西脇智子(2015-f)「巻末資料5. 帰還した日本盲人図書館の蔵書：点字出版本一覧」、本間記念室委員会編『本間一夫と日本盲人図書館：本間一夫生誕百年記念出版』日本点字図書館(非売品)、106-107頁
- 西脇智子(2018)「日本盲人図書館における点訳奉仕活動の実態：点訳奉仕者個人別台帳の閲覧結果より」『実践女子大学短期大学部紀要39号』111-125頁
- 日本ライトハウス四十年史編集委員会編(昭和37)『社会福祉法人日本ライトハウス四十年史』日本ライトハウス
- 日本点字図書館編(2010)『点字とあゆんだ70年：日本点字図書館点訳奉仕活動の記録』日本点字図書館
- 日本点字図書館編集委員会編(1994)『日本点字図書館50年史』日本点字図書館
- 本間一夫(1941)『日本盲人図書館開設一週年』日本盲人図書館(非売品)
- 本間一夫(1980)『指と耳で読む：日本点字図書館と私』(岩波新書 黄版138)岩波書店
- 立花明彦(2015-a)「第2章1. はじめに：本間ノートの発見とその研究的意義」、本間記念室委員会編『本間一夫と日本盲人図書館：本間一夫生誕百年記念出版』日本点字図書館(非売品)、20-22頁
- 立花明彦(2015-b)「第2章3. 図書館開館準備と開館記念式典」、本間記念室委員会編『本間一夫と日本盲人図書館：本間一夫生誕百年記念出版』日本点字図書館(非売品)、26-32頁
- 立花明彦、山田美雪(2018)「『本間ノート』を読み解く：日本盲人図書館開館1年の活動実態」『図書館界』70(2)、417-423頁
- 谷合佑(1998)「第1章 点字印刷・出版事業」『盲人福祉事業の歴史』、明石書店、24-64頁
- 渡辺豊次(2017)「雑録欄：わが筆とわが硯 点字雑誌『むつぼしのひかり』データ化・研究プロジェクト編『むつぼしのひかり 墨字訳 第二集』桜雲会点字出版部